

# 神奈川県をめざすべき教職員像の実現に向けて

開発期から発展期のどの段階に該当するかについては、標準的なものを示しています。

## めざすべき教職員像

【※】わかりやすい授業  
わかる喜びが実感できる「主体的・対話的で深い学び」につながる授業

13の教職員像について、  
ステージごとに  
学び続けていきましょう！

### 授業力

子どもが自ら取り組む、  
【※】わかりやすい授業の実践

- ◎ 子どものやる気を引き出し、意欲を高めることができる
- ◎ 【※】わかりやすい授業の実践ができる
- 高い集団指導の力をもち、望ましい学級づくりができる
- 授業研究を生かした校内研修に進んで取り組むことができる

### 指導力

### 課題解決力

子どもや社会の変化による課題の把握と解決

- ◎ 子どもをよく理解し、多様な教育的ニーズに対して適切に対処・指導できる
- 得意分野をもち、個性豊かで、連携・協力しながら指導できる
- 豊かな創造力をもち、新たな課題へ積極的に挑戦する意欲や実行力をもっている
- 教職員全体と協力し、学校全体を意識しながら組織的に取り組むことができる
- 保護者、地域の人々と協力して取り組むことができる

### 人格的資質・情熱

教職員としての人格的資質・教職への情熱

- ◎ 豊かな人間性と社会性、高い対人関係能力とコミュニケーション能力をもっている
- 子どもへの教育的愛情と責任感、教職に対する使命感と誇りをもっている
- 高い倫理観をもち、公平・公正に行動できる
- 変化に対応し、学び続ける向上心をもっている

#### 【養成期】 出会い、学ぶ

— 主に、教職課程で学ぶ学生 —

教職と出会い、学校と出会い、教師という仕事に触れるとともに、教育の歴史・制度について学び、教職に対する理解や認識をもつ。

#### 【開発期】 学び、高める

— 主に、教職経験5年程度までの教員 —

教師という仕事に向き合い、あるべき姿や役割について学びながら指導力を高め、信頼される教職員をめざす。

#### 【充実期】 広げ、分かち合う

— 教職経験5~20年(30~45歳)程度の教員 —

様々な教育活動を通して視野を広げ、経験を同僚教職員と共有するなど、学校運営の中核的な存在として、より良い学校づくりを進める。

#### 【発展期】 伝え、支える

— 教職経験約20年(約45歳)以上の教員及び管理職 —

学校づくりや教育活動をリードし、同僚教職員・部下教職員の模範となり、リーダーシップを発揮し、学校を動かし、支え、発展させる。

【養成期から発展期までのすべての時期に共通して身に付けるべき項目】

「カリキュラム・マネジメント」を踏まえた、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりについて理解を深め、推進している。

教科指導に必要な知識や子どもの意欲を引き出す指導法を理解している。

わかる喜びを与える子ども主体の授業づくりと学習評価の基礎、校種間の教科の系統性を理解している。

学級担任や教科担任の役割や基本的な仕事内容について理解している。

学習指導案作成や教材作成の基本的な手法について理解している。

発達の段階や生徒の実態に応じた指導法を身に付け、学習意欲を高める工夫をしている。

校種間の教科の系統性を踏まえ、子どもの実態に応じた教材・指導法による授業を行い、学習評価を指導の改善に生かしている。

子どもの個性を理解し、互いに認め合い高め合える学級集団を育てている。

常に自ら学び続け、校内研修に積極的に参加して、授業改善に努めている。

学習意欲を高める授業を実践し、同僚教職員と共有し、改善を図っている。

指導と評価の一体化のもと、子どもの実態を踏まえた授業研究を行い、その成果を校内で共有している。

学級や学年を越えて、同僚教職員と協力し、望ましい集団を育てている。

同僚教職員と授業研究を主導し、校外の研究成果を授業改善に生かしている。

学習意欲を高める指導法について、学校全体で共有を図り、授業研究を推進している。

指導と評価の一体化を踏まえた組織的な授業改善を推進している。

学校全体の子どもの実態を把握し、組織的な支援体制を構築している。

自校の教育目標に基づく授業研究を推進し、その成果の校外での活用を中心となっている。

・管理職については、向上をめざす資質として「授業力」を扱いません。

【養成期から発展期までのすべての時期に共通して身に付けるべき項目】

新たな課題や教育的ニーズを自ら把握し、神奈川の支援教育やインクルーシブ教育等について理解し、推進している。

子どもの発達の段階とその特徴や、カウンセリングマインドについて理解している。

自分の得意分野を理解し、その向上と教育への活用について考えをもっている。

教育における新たな課題や動向に関心をもち、理解している。

教職員全員がチームとして機能する際の留意点と期待される効果について理解している。

保護者や地域の人々、心理や福祉等の外部専門家との連携・協働の重要性を理解している。

教育的ニーズに応じた指導法を学び、カウンセリングマインドをもって子どもに寄り添い適切に対処している。

個々の特性に応じた能力を高め、組織の中で有効に役立っている。

豊かな創造力とともに、新たな課題へ挑戦する意欲をもっている。

研修や同僚教職員から積極的に学び、校内の課題に対して当事者意識を持って対応している。

保護者や地域の人々、心理や福祉等の外部専門家との連携・協働を意識し、機会を捉えて実践している。

教育的ニーズに応じた指導法を同僚教職員と共有し、校種間で共有した情報を効果的に活用している。

自身の高めた能力を効果的に発揮して、同僚教職員と協力して子どもの指導にあたっている。

学校全体の課題に挑戦し、その解決に向けて積極的に取り組んでいる。

経験の浅い教職員にメンターの役割を果たし、教職員集団の成熟に努めている。

保護者や地域の人々、心理や福祉等の外部専門家と学校との相互理解を図り、組織的に連携・協働している。

学校全体の教育的ニーズを把握するとともに、校種間連携の主体となり、組織的に子どもの支援を推進している。

自身の能力にさらに磨きをかけ、これを活用して組織を動かし、学校運営を円滑に進めている。

新たな教育課題を理解し、学校における組織的な取り組みをけん引している。

教育力の継承に向けて、OJTの推進を図るとともに、企画・調整の力を発揮して、組織をまとめている。

保護者や地域とネットワークを築き、地域に根ざした学校づくりを行っている。

【養成期から発展期までのすべての時期に共通して身に付けるべき項目】

子どもの人権に関わる諸課題について問題意識をもち、家庭・地域や関係機関、異校種の学校等と連携しながら人権教育を推進している。

社会人としてのマナーを身に付け、他者を共感的に理解している。

子どもに対する愛情と、教職に対する使命感や情熱をもっている。

教育公務員として必要な法令や規則を知り、法令遵守を理解している。

自ら学ぶ姿勢をもち、必要な情報を収集し、身に付けている。

社会人として必要な人間性を有し、他者との信頼関係を築いている。

教育的愛情と責任感、教職に対する使命感と誇りをもち、子どもの成長をイメージしながら指導している。

教育公務員としての使命を自覚し、法令や規則を遵守して、不祥事防止に努めている。

日々の教育活動を振り返り、自己研鑽に努め、自主的に学び続けている。

教職員間の円滑なコミュニケーションを促進し、活力ある組織をつくっている。

使命感と誇りを同僚教職員と共有し、組織的に子どもを支援している。

危機管理意識をもち、不祥事防止に関して同僚教職員の模範となっている。

日々研鑽に努め、その成果を同僚教職員にも広げている。

風通しのよい職場環境を築き、組織的に教育力の向上を図っている。

子どもの成長を第一に考え、学校運営において先導的役割を果たしている。

高い危機管理意識をもち、不祥事防止や事故等発生後の対応に組織的に取り組んでいる。

子どもや社会の変化を意識し、広い視野をもって学校づくりを行っている。

◆ めざすべき校長像については、「学校経営力」を加えます。  
※ 副校長、教頭には、校長の校務を補佐する役割として、校長に準じる役割が求められます。

### 学校経営力

専門家集団をチームとしてまとめる学校経営の実践

- 教育者としての強い使命感に基づくゆるぎない信念をもち、「かながわ教育ビジョン」の理念のもとに設定した学校教育目標の実現に向けて教職員をまとめ、指導している。
- 教職員や組織の適切な管理監督を行っている。
- 教職員個々のキャリアプランを見通し、教職員一人ひとりの意欲向上・人材育成に資する指導・助言を行っている。
- 開かれた学校づくりに向け、保護者や地域の方の意見を把握するとともに、学校に対する要望の実現に向けて努力している。
- 学校事故などの不測の事態に対し、強いリーダーシップをもって迅速かつ適切に、そして組織的に対応している。
- 適正な学校評価の実施に努め、評価結果を踏まえ、不断の学校運営の改善と発展を図っている。



## 神奈川県のめざすべき教職員像の実現に向けて

～ 校長及び教員の資質向上に関する指標 ～

【養成期】 出会い、学ぶ

【開発期】 学び、高める

【充実期】 広げ、分かち合う

【発展期】 伝え、支える

### 養護教諭

◆ 「課題解決力」と「人格的資質・情熱」のほかに、「授業力」に代えて、保健管理と保健指導に必要な専門的力である「専門力」を加えます。

### 専門力

子どもに寄り添い、子どもの心身を守る学校保健活動の実践

- |   |  |   |   |
|---|--|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○保健管理と健康相談に必要な知識や技能を理解している。</li> <li>○子どもの実態に応じた保健指導について理解している。</li> <li>○保健に係る集団指導について、子どもが互いに協力し合える指導法を理解している。</li> <li>○学校保健計画や保健室経営計画、学校保健活動の基本を理解している。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○適正な保健管理と子どもに寄り添った健康相談に取り組んでいる。</li> <li>○子どもの実態を把握し、適切な保健指導を実践している。</li> <li>○子どもの個性を理解し、保健に係る集団指導を実践している。</li> <li>○学校保健計画作成の中心となり、学校保健活動を円滑に実施し、評価している。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○保健管理と健康相談の結果を同僚教職員と共有し、校内の学校保健活動や教育相談活動の充実を図っている。</li> <li>○適切な保健指導を実践し、子どもの健康と成長を支えている。</li> <li>○同僚教職員と協力し、保健に係る集団指導を実践している。</li> <li>○コーディネーター的な役割をもち、同僚教職員と学校保健活動全体をけん引している。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○保健管理と健康相談を踏まえた協力・連携のもと、円滑な学校運営に寄与している。</li> <li>○適切な保健指導を実践し、子どもの主体的な健康づくりにつなげている。</li> <li>○保健に係る集団指導を通じて、様々な学校活動を活性化している。</li> <li>○より充実した学校保健活動に向け、同僚教職員の円滑な参画を促している。</li> </ul> |
|---|--|---|---|

### 栄養教諭

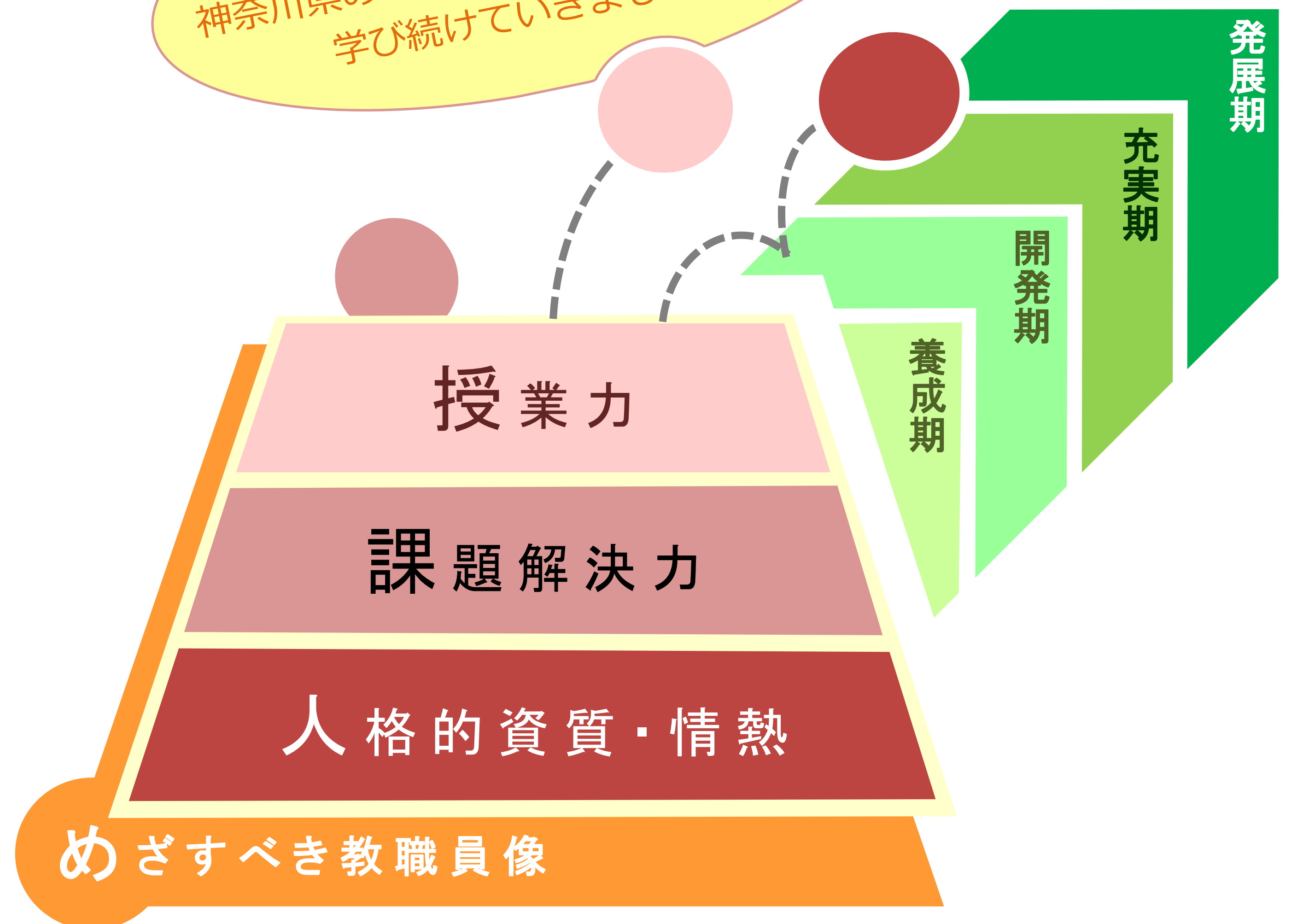
◆ 「課題解決力」と「人格的資質・情熱」のほかに、「授業力」に代えて、給食管理と食に関する指導に必要な専門的力である「専門力」を加えます。

### 専門力

健やかな心身と豊かな人間関係を育む食に関する指導の実践

- |   |   |  |   |
|---|---|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○給食管理や食に関する指導に必要な基本的知識や技能を理解している。</li> <li>○子どもの現代的な健康課題を理解し、その対応に必要な専門性を理解している。</li> <li>○学校における食育の中核的な役割としての重要性を理解している。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○給食管理や食に関する指導に必要な知識や技能を身に付け、常に学び続けている。</li> <li>○子どもの現代的な健康課題を理解し、その対応に必要な専門性を発揮している。</li> <li>○学校における食育での中核的な役割を理解し、取り組んでいる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○子どもの現状と課題を踏まえ、給食管理に加えて、学校教育活動の一環として食に関する指導を展開するため、校内で中核的な役割を果たしている。</li> <li>○社会変化に対応し、最新の食に関する知見を収集し、学校における食育の推進を果たしている。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○給食管理や食に関する指導について、主体的に学校運営に関わる意識や実践的指導力をより一層高めている。</li> <li>○学校内外の関係者と連携し、食育推進のコーディネーターとして中核を担っている。</li> </ul> |
|---|---|--|---|

子どもたちのために、  
神奈川県のめざすべき教職員像を確認し、  
学び続けていきましょう！



神奈川県教育委員会では、本県の教育の総合的指針である「かながわ教育ビジョン」の重点的な取組み「VI. 意欲と指導力のある教職員の確保・育成と活力と魅力にあふれた学校づくり」を推進するため、「教職員人材確保・育成計画」の中で、神奈川県における「めざすべき教職員像」を明らかにしています。